

教育講演 5

カテーテルアブレーションの進歩

山口 尊則

佐賀大学医学部附属病院 循環器内科

Summary

1990年初頭に臨床導入されたカテーテルアブレーションは、この30年の間にさまざまな知見の集積と目覚ましい技術革新が進み、ほぼあらゆるタイプの頻脈性不整脈に対して適応されるようになった。またその治療成績も向上している。主要な技術革新は、(1)3次元マッピングシステム・多電極マッピングの進歩、(2)心腔内超音波の臨床導入、(3)コンタクトフォースセンシングカテーテルの臨床導入、(4)バルーンテクノロジーによる肺静脈隔離術の4つの分野に集約されると考える。とくに3次元マッピングの技術革新によって、頻拍の起源や回路、不整脈基質の精度の高い高密度マッピングが可能となり、不整脈を視覚化できるようになった。さらにコンタクトフォースは、安全性を担保しつつより質の高い焼灼巣の作成を可能とした。本講演ではこれらの技術革新について、自験例を用いながら解説する。

略歴

山口 尊則 (やまぐち たかのり)

2002年 防衛医科大学校卒業

[職歴] 防衛医科大学校付属病院、自衛隊中央病院で研修。防衛省勤務を経て、2010年より EP Expert Doctors-Team Tsuchiya に所属し不整脈治療の基礎を習得。2014年大分大学医学部循環器内科・臨床検査診断学講座、2015年佐賀県医療センター好生館、2017年米国ユタ大学の勤務を経て、2018年佐賀大学医学部循環器内科特任教授。2019年4月より佐賀大学医学部先進不整脈治療学講座教授。

[専門領域] 不整脈の診断・非薬物治療 (とくにカテーテルアブレーション)